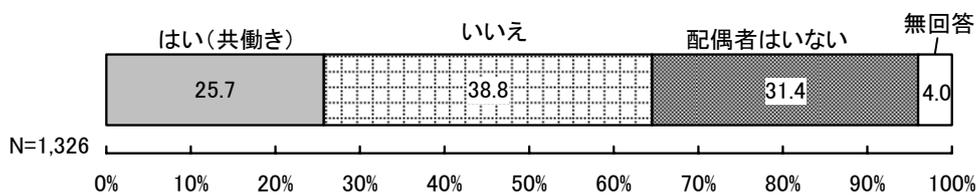


◇男女共同参画について

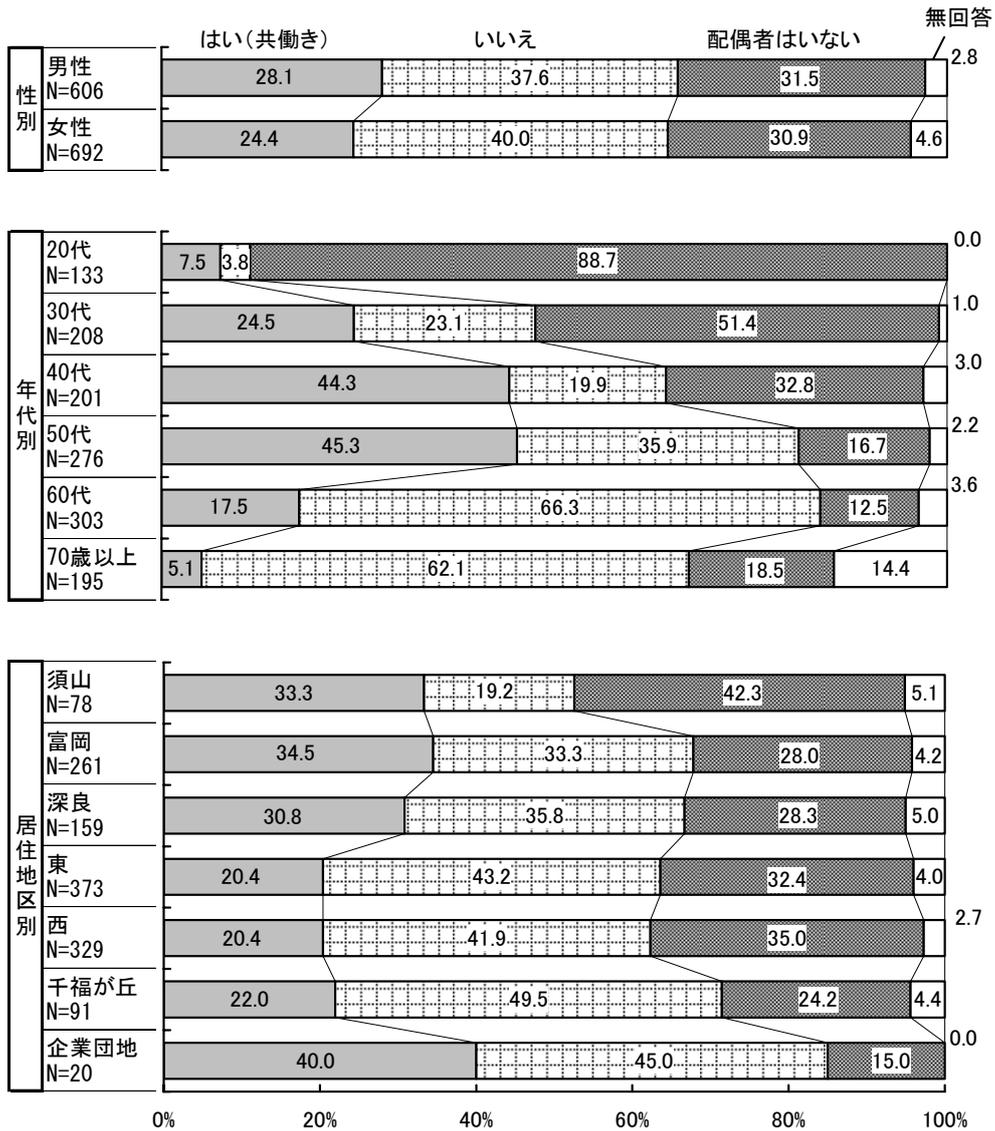
問 22 ご夫婦とも働いていますか。(○は1つ)



共働きであるかは、「はい(共働き)」が2割強、「いいえ」が4割弱。
「はい(共働き)」は40代、50代が目立って高い。

夫婦とも働いているかについては、「はい(共働き)」が25.7%、「いいえ」が38.8%、「配偶者はいない」が31.4%となっている。

【属性別】

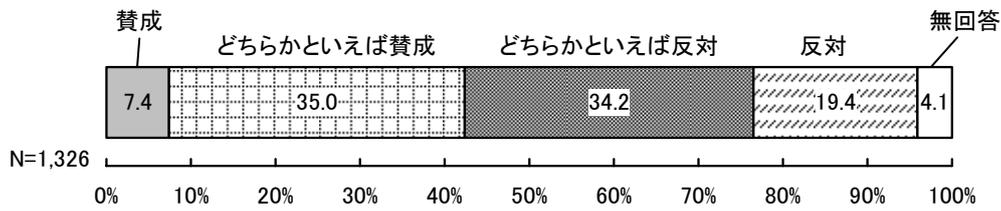


性別にみると、「はい（共働き）」は男性が女性を上回り、「いいえ」は女性が男性を上回っている。

年代別にみると、「はい（共働き）」は40代、50代で4割を超えて目立って高くなっており、「いいえ」は60代、70歳以上で高くなっている。

居住地区別にみると、「はい（共働き）」は企業団地が最も高く、4割となっているが、企業団地は「いいえ」も半数近くと高くなっている。「はい（共働き）」は須山、富岡、深良の3地区も3割となっている一方で、東、西、千福が丘の3地区は2割ほどで、「いいえ」が4～5割となっている。「配偶者はいない」は須山で42.3%と最も高く、企業団地で15.0%と最も低い。

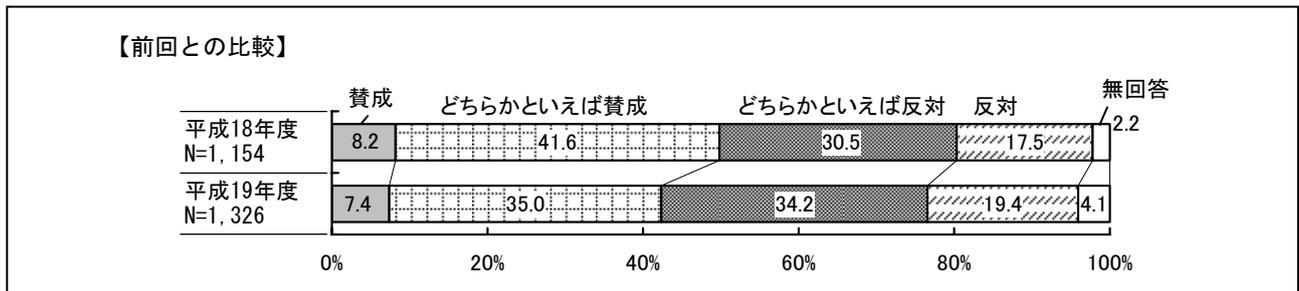
問 23 「男は仕事、女は家庭」という性別による役割分担の考え方をどう思いますか。(○は1つ)



「男は仕事、女は家庭」の考え方には、「反対」が「賛成」を大きく上回っている。前回に比べて「反対」が高くなっている。年代が上がるほど「賛成」の割合が高い。

「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識は、「どちらかといえば賛成」が 35.0%、「どちらかといえば反対」が 34.2%と拮抗している。「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせると、「賛成」は 4 割強、「反対」は 5 割強となり、「反対」が高くなる。

下記のグラフのように前回と比較してみると、「反対」、「どちらかといえば反対」のいずれも前を上回り、合わせた「反対」は前回より約 6 ポイント高くなっている。

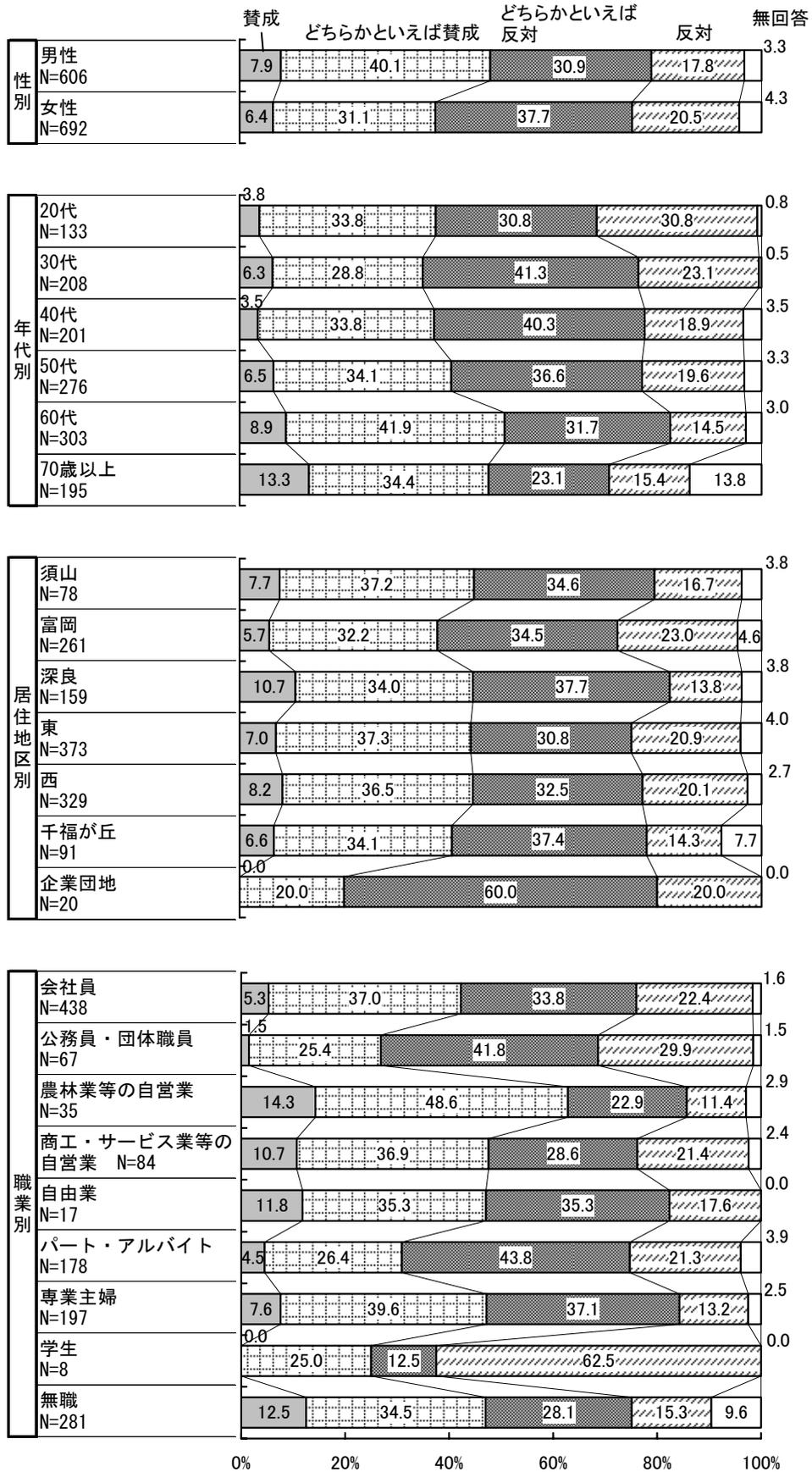


次頁のグラフのように、性別にみると、「反対」は女性が男性を大きく上回り、過半数に達している。年代別にみると、「賛成」は年代が上がるほど割合が高くなる傾向である。「賛成」と「反対」の割合は 60 代で逆転している。

居住地区別にみると、「賛成」は富岡と企業団地で低くなっている。特に企業団地では 8 割が「反対」と回答している。

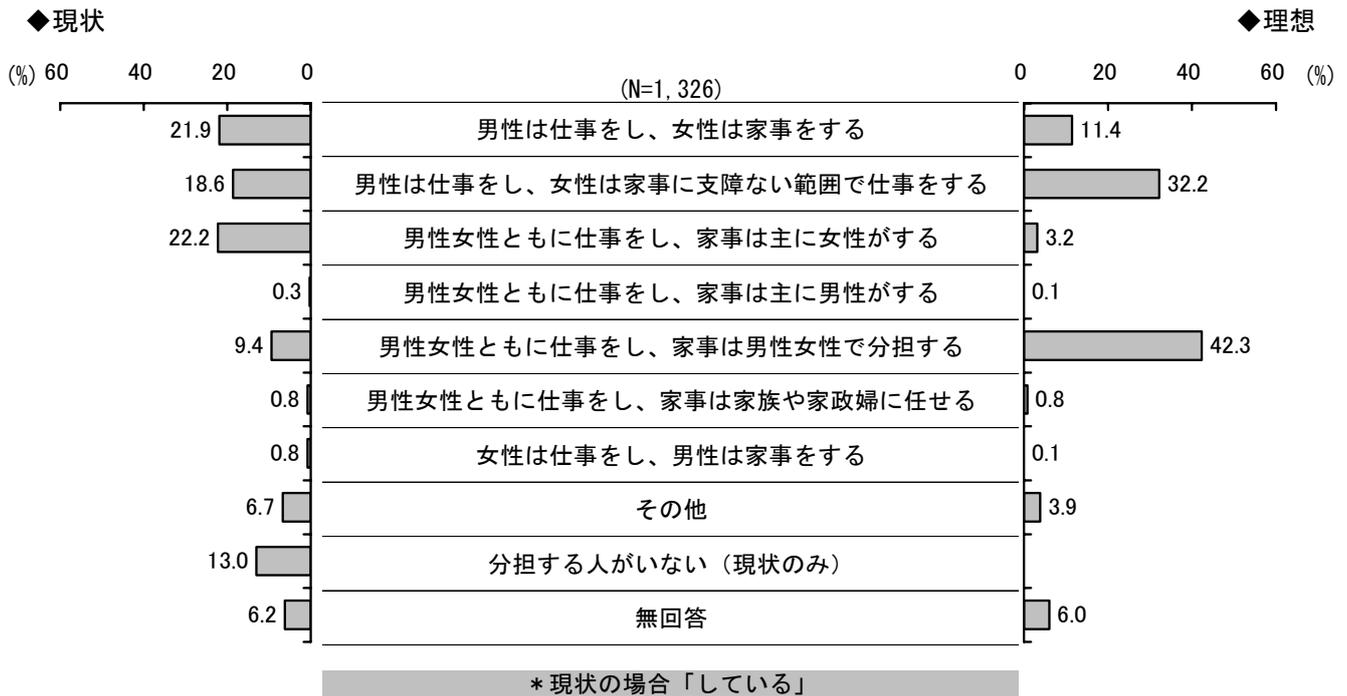
職業別にみると、「賛成」は農林業等の自営業、専業主婦、無職などで高く、公務員・団体職員、パート・アルバイトなどで低い。公務員・団体職員、パート・アルバイトはいずれも「反対」が 6 割を超えている。

【属性別】



問 24 あなたのご家庭では、主にどのような役割分担となっていますか。(○は1つ)

問 25 本来は、どのような役割分担が望ましいと思いますか。(○は1つ)



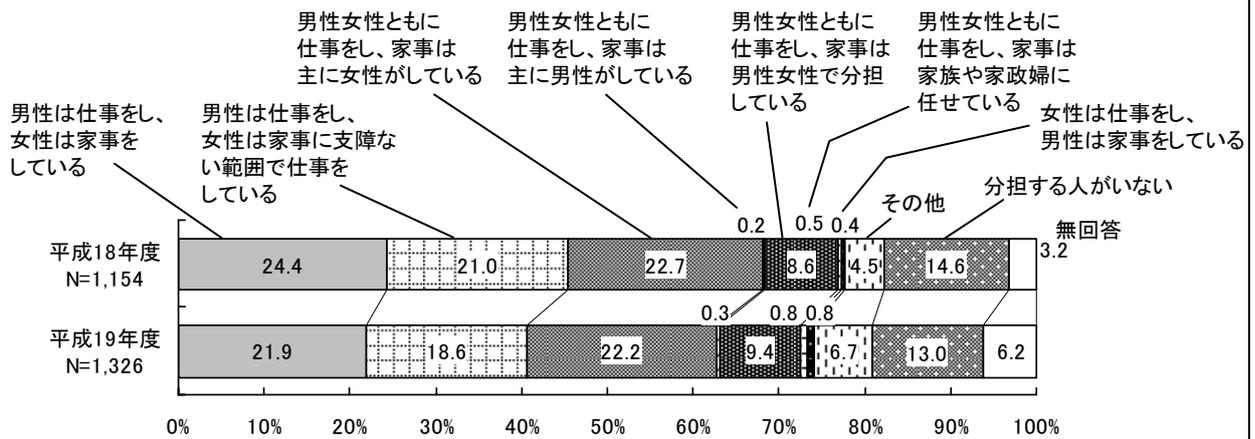
家庭内の役割分担の現状は、いわゆる性別役割分担が顕著であるが、理想の役割分担は、「男性女性ともに仕事、家事は男性女性で分担」が最も高い回答。理想の役割分担は、性別、年代別による違いが明確である。

家庭内の役割分担の現状は、「男性女性ともに仕事をし、家事は主に女性がしている」が 22.2%と最も高く、次いで「男性は仕事をし、女性は家事をしている」が 21.9%、「男性は仕事をし、女性は家事に支障ない範囲で仕事をしている」が 18.6%となっており、大半が前設問のように「男は仕事、女は家庭」という現状であることがうかがえる。

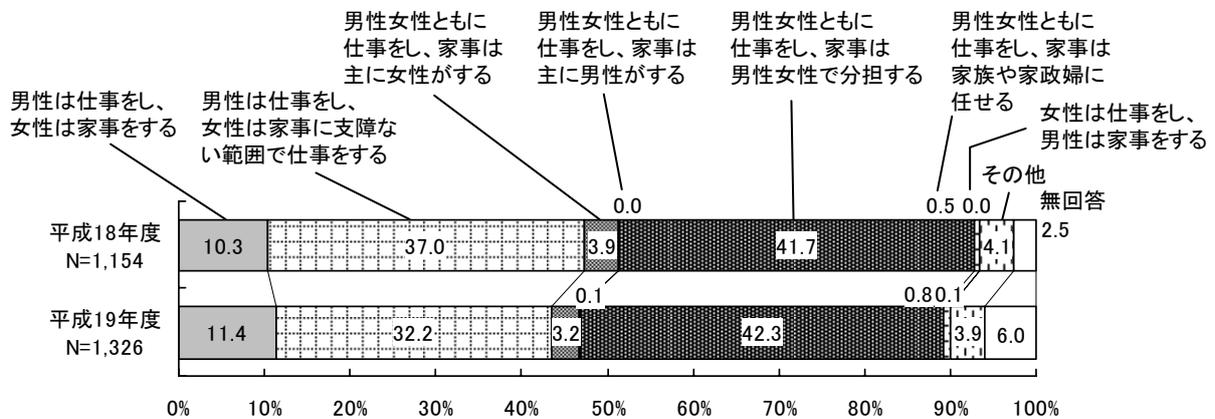
一方、本来望ましいと考える役割分担は、「男性女性ともに仕事をし、家事は男性女性で分担する」が 42.3%と最も高く、次いで「男性は仕事をし、女性は家事に支障ない範囲で仕事をする」が 32.2%となっている。主にこの2項目に分かれているが、「男性は仕事をし、女性は家事をする」にも1割の回答がある。

【前回との比較】

◆役割分担（現状）



◆役割分担（理想）



役割分担の現状を、前回の調査と比較すると、大差は見られないが、前記の主となっている3項目（「男性は仕事をし、女性家事をしている」、「男性は仕事をし、女性家事に支障ない範囲で仕事をしている」、「男性女性ともに仕事をし、家事は主に女性がしている」）への回答がいずれも低くなっている。

一方、理想の役割分担を前回の調査と比較すると、大差は見られないが、「男性は仕事をし、女性家事に支障ない範囲で仕事をする」は今回が前回は4.8ポイントほど下回っている。

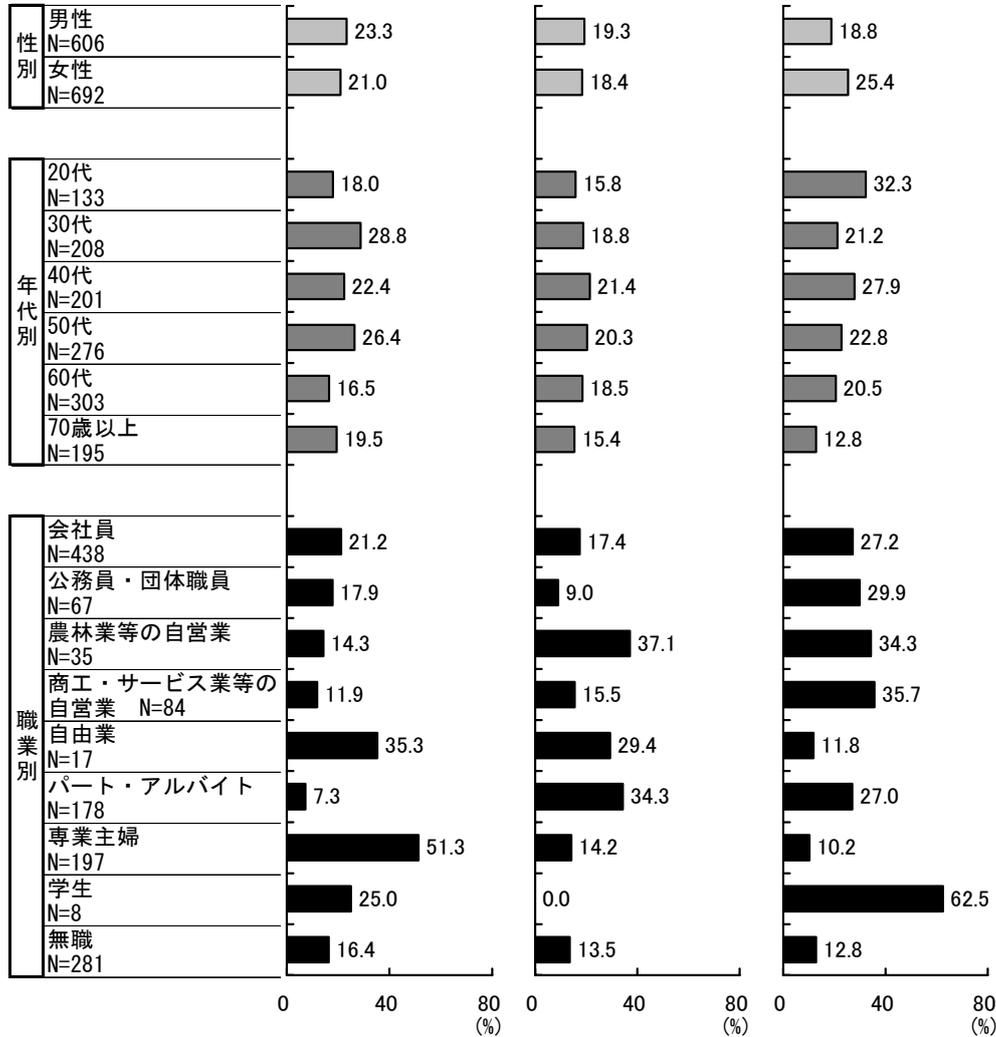
【属性別】

◆役割分担（現状）

強

性別役割分担意識の強さ

| | | |
|--------------------|------------------------------|--------------------------|
| 男性は仕事をし、女性は家事をしている | 男性は仕事をし、女性は家事に支障ない範囲で仕事をしている | 男性女性ともに仕事をし、家事は主に女性がしている |
|--------------------|------------------------------|--------------------------|



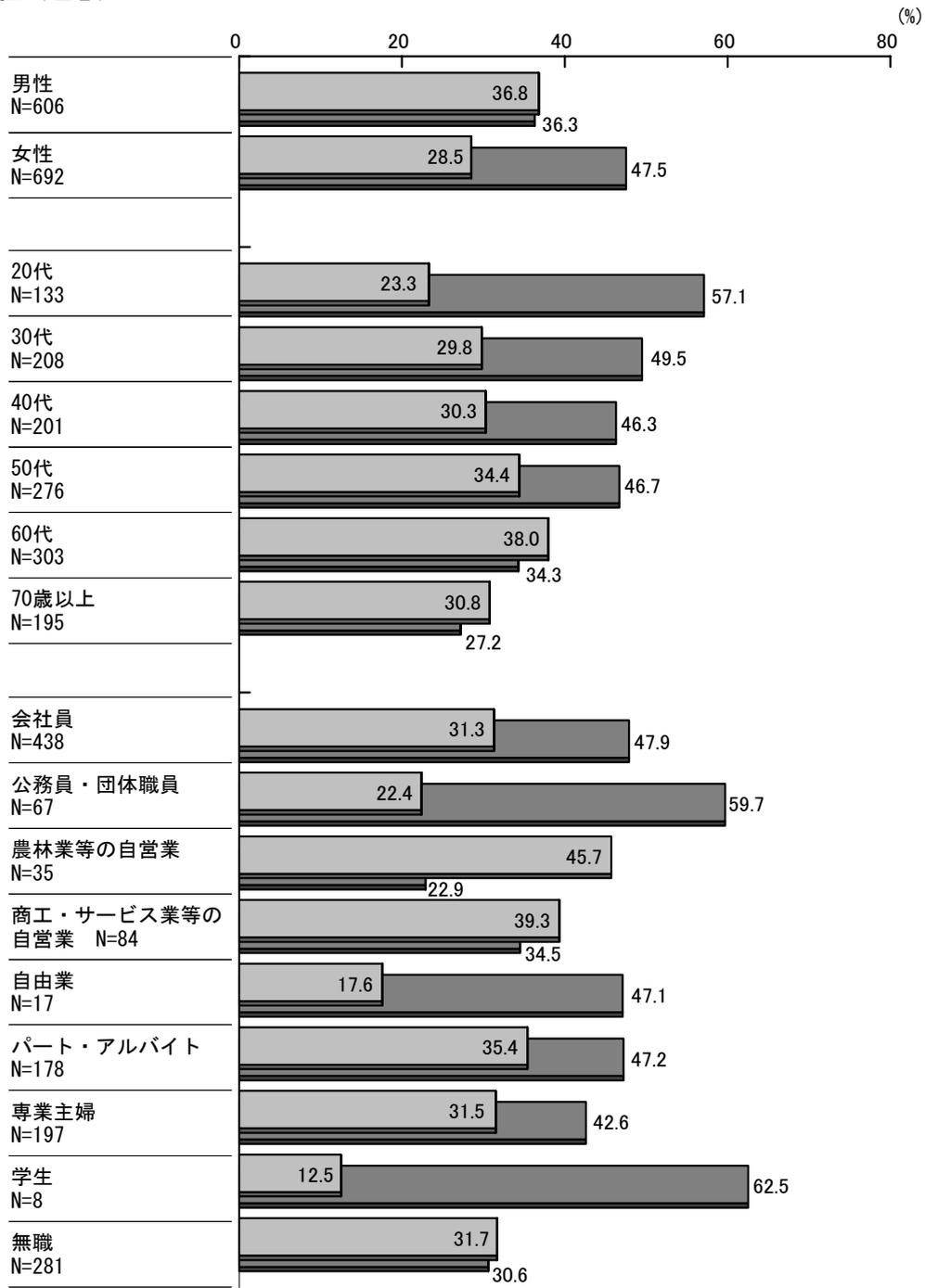
役割分担の現状について、回答の多い3項目を役割分担意識の強い順に、属性別にみると、性別では、「男性女性ともに仕事をし、家事は主に女性がしている」のみ女性が男性を上回っている。

同じく年代別では「男性は仕事をし、女性は家事をしている」は30代、50代で3割弱と比較的高くっており、「男性女性ともに仕事をし、家事は主に女性がしている」は20代、40代で3割前後と比較的高い。

また職業別にみると、「男性は仕事をし、女性は家事をしている」は専業主婦で過半数と目立って高く、「男性は仕事をし、女性は家事に支障ない範囲で仕事をしている」は農林業等の自営業やパート・アルバイトなどで3～4割と比較的高い。

【属性別】

◆役割分担（理想）



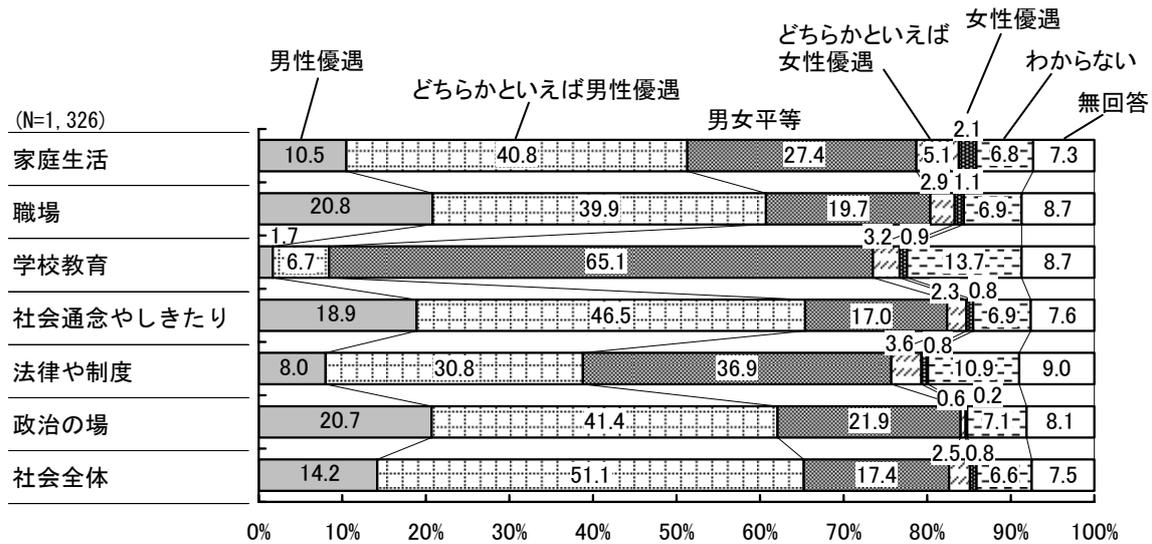
□ 男性は仕事をし、女性は家事に支障ない範囲で仕事をする
 ■ 男性女性ともに仕事をし、家事は男性女性で分担する

理想の役割分担について回答の集中した2項目を比較してみると、性別では「男性は仕事をし、女性は家事に支障ない範囲で仕事をしている」は男性が女性を8.3ポイントと比較的大きく上回っている。一方、「男性女性ともに仕事をし、家事は男性女性で分担する」は逆転し、女性が男性を11.2ポイントと大きく上回っている。

同じく年代別では、「男性は仕事をし、女性は家事に支障ない範囲で仕事をしている」は年代が上がるほど割合が高い傾向で、最も低い20代では2割強だが、最も高い60代では4割弱となっている。一方、「男性女性ともに仕事をし、家事は男性女性で分担する」は逆に年代が上がるほど割合が低くなる傾向で、最も低い70歳以上では3割弱だが、最も高い20代では6割弱と過半数を占めている。

また職業別では、「男性は仕事をし、女性は家事をしている」は農林業等の自営業、商工・サービス業等の自営業、無職で「男性女性ともに仕事をし、家事は男性女性で分担する」を上回っている。特に農林業等の自営業ではその差が20ポイント以上となっている。一方、「男性女性ともに仕事をし、家事は男性女性で分担する」は農林業等の自営業、商工・サービス業等の自営業、無職を除くすべての職業で「男性は仕事をし、女性は家事に支障ない範囲で仕事をする」を上回っている。特に公務員・団体職員ではその差が約40ポイントと非常に大きくなっており、その他の職業でも10ポイント以上の差がある。

問 26 次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(各分野で○は1つずつ)



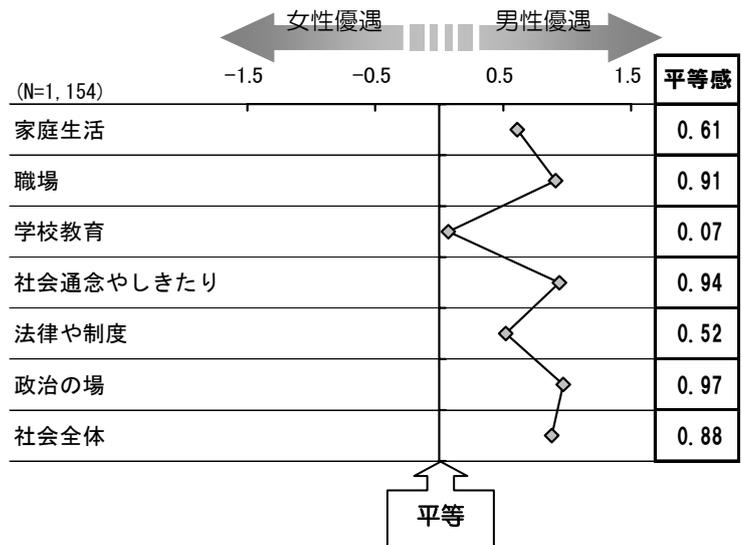
平等感

スコア：「男性優遇」=2「どちらかといえば男性優遇」=1「男女平等」=0「どちらかといえば女性優遇」=-1「女性優遇」=-2
 平等感=上記を回答人数に掛け、回答総数（無回答を除く）で除したもの

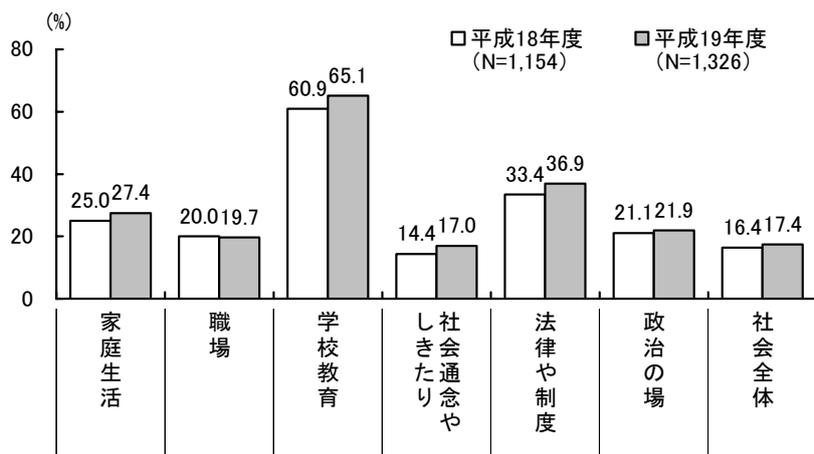
男女の地位の格差が感じられる分野は『職場』、『社会通念やしきたり』、『政治の場』、『社会全体』で、6～7割が“男性優遇”と回答。『学校教育』における平等感は前回からの伸びが大きい。

7つの分野について、男女の地位の平等感をみると、「男女平等」が最も高いのは、『学校教育』で、65.1%と大半となっている。次いで『法律や制度』で高く、36.9%となっている。「男性優遇」と「どちらかといえば男性優遇」を合わせて“男性優遇”の割合をみると、『職場』、『社会通念やしきたり』、『政治の場』、『社会全体』で6～7割ほどの回答がみられる。

平等感について、上記のように算出した平等感をみると、女性優遇を意味するマイナスの値となった項目は見られず、「男女平等」の回答割合が高い『学校教育』で0.07と限りなく平等に近いが、他はすべて男性優遇を意味するプラス方向に平等感が位置している。『職場』、『社会通念やしきたり』、『政治の場』などは、1に近く、男性優遇感が強い。

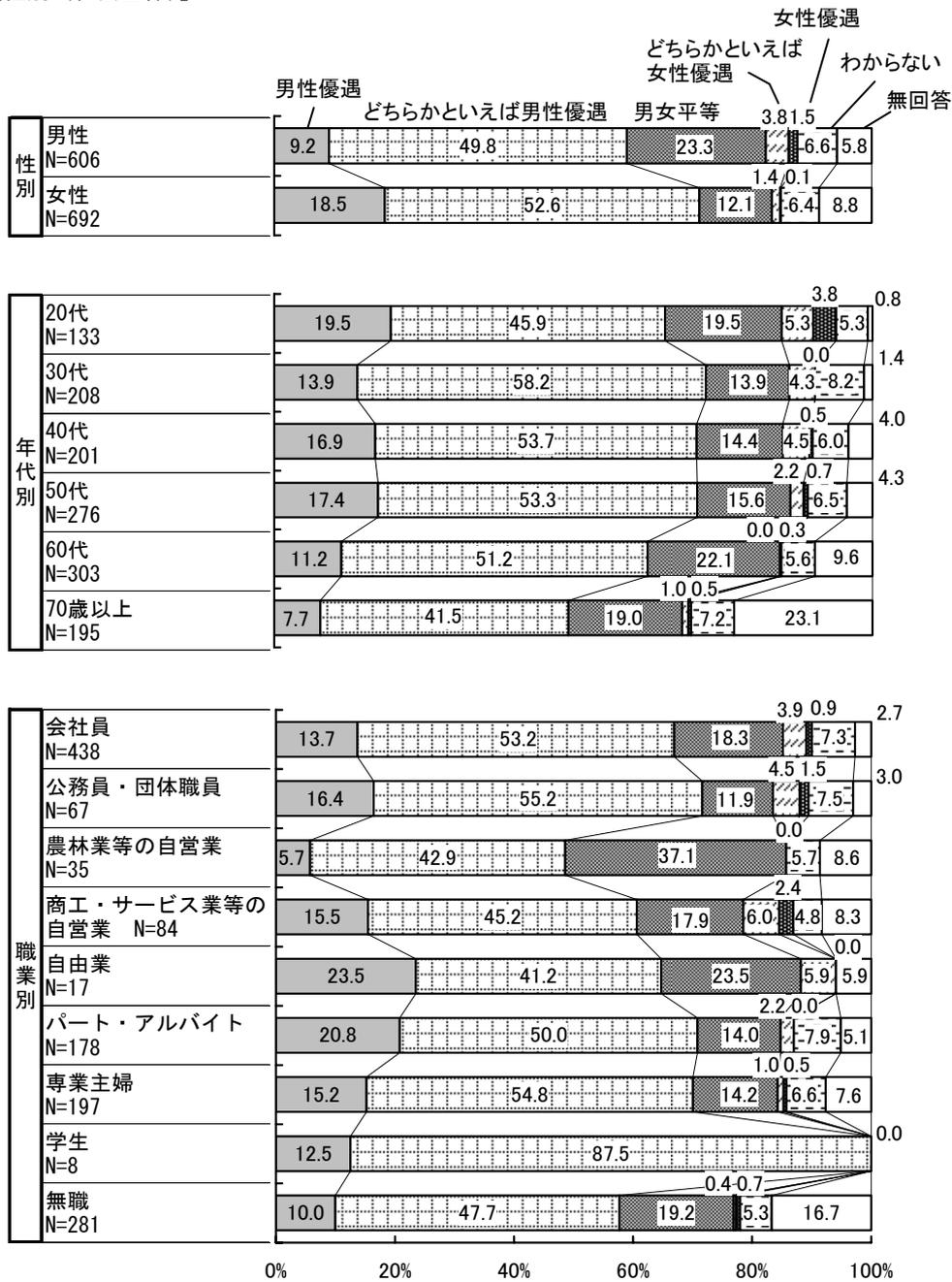


【前回との比較（「男女平等」と答えた回答率）】



前回と「男女平等」の回答について比較してみると、いずれもほとんど差はないが、「職場」を除いて、いずれの項目もわずかに今回の回答率が高い。中でも「男女平等」の回答が高い『学校教育』は4.2ポイント、『法律や制度』は2.5ポイント前回を上回っている。また、『家庭生活』、『社会通念やしきたり』も前回からの伸びが比較的大きく、それぞれ『家庭生活』は2.4ポイント、『社会通念やしきたり』は2.6ポイント、前回を上回っている。

【属性別〈社会全体〉】



『社会全体』の平等感について性別にみると、女性は“男性優遇”の割合が7割と男性に比べて10ポイント以上高い。特に「男性優遇」については男性の2倍となっている。一方、「男女平等」への回答は、男性が2割強、女性が1割強と10ポイント以上の差が開いている。

年代別にみると、「男性優遇」は年代が上がるほど割合が低くなる傾向となっている。「どちらかといえば男性優遇」を合わせてみると、30代～50代が目立って高くなっている。

職業別にみると、「男性優遇」は農林業等の自営業で極端に低くなっており、伴って“男性優遇”も低くなっている。